

令和7年度ベストプラクティス企業 社会福祉法人長井福社会の取組について

山形労働局では、例年、11月の「過重労働解消キャンペーン」の取組の一つとして、働きやすい職場づくりや長時間労働削減などに積極的に取り組んでいる「ベストプラクティス企業」を選定し、取組事例の紹介を行っています。

今年度はベストプラクティス企業として、「社会福祉法人長井福社会」を選定し、令和7年11月14日(金)に山形労働局長が職場に訪問し、取組内容の確認や職員の方と意見交換を行いました。

労働者人口が減少しつつある介護現場の生産性向上に向けた県内企業の更なる機運の醸成を図るため、ベストプラクティス企業の取組事例について紹介します。

1. 企業概要

企業名	社会福祉法人長井福社会
本社所在地	長井市小出3453番地
代表者	理事長 豊野 充
設立	昭和58年(1983 年)
従業員	196名(令和7年11月現在)
事業内容	特別養護老人ホーム、デイサービス、 在宅介護支援等



2. 取組のきっかけ

この取組の原点は、2015年の人口ピラミッドが介護業界に突きつけた「厳しい現実」にある。データは、介護サービスを必要とする65歳以上の高齢者層が大きく膨らむ一方で、介護の担い手となる15歳から64歳の生産年齢人口が先細りしていくことを受け、(福)長井福社会では、平成27年度よりICT、介護ロボット導入の検討を開始し、令和2年度、ICTや介護ロボット導入を中心とした業務改革をスタートさせた。

3. 取組の概要

1. 特別養護老人ホーム慈光園での取組

業務の効率化・職員の負担軽減・サービスの向上を目指し、山形県の介護テクノロジー定着支援事業費補助金などを活用し、DX化・ICT化に向けた様々な機器を導入した。

(詳細は2ページ参照)

2. 慈光園中央デイサービスセンターでの取組

高価なICT機器を導入するのではなく、職員一人ひとりが知恵を出し合い、日々の業務に潜むムダを洗い出し、作業方法などの見直しを図った。(詳細は3ページ参照)

4. 介護現場のDX化・ICT化による取組

特別養護老人ホーム慈光園では、業務の効率化・職員の負担軽減・サービスの向上を目指し、山形県の介護テクノロジー定着支援事業費補助金などを活用し、DX化に舵を切った。

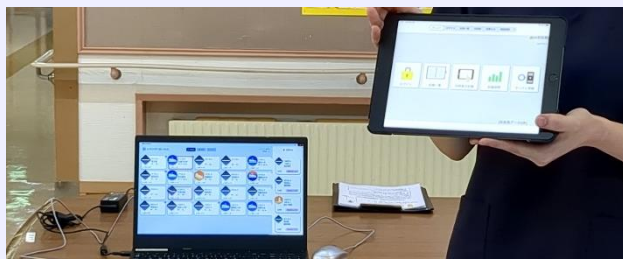
取組の内容

1. デジタル機器の導入

① 介護ソフトアプリ及びタブレット端末の導入

介護ソフトアプリにより利用者の食事・排泄といった日々の記録をタブレットに入力でき、その場でデータ保存される。音声入力も可能。

これまで、利用者の介護記録を紙にメモし、それを事務所のPCに入力しに行く必要があったが、当該機器の導入によりこれらの手間が削減、またペーパーレス化にも繋がった。



画面右が介護ソフトアプリ
画面左が利用者見守りシステムのモニタリング画面

② 利用者見守りシステム

マット状の機器。ベッド上に敷くことで利用者の睡眠・心拍・呼吸の状態をリアルタイムで把握可能。職員の昼夜の見回りの省力化に繋がり、身体的負担が軽減された。

③ Wi-Fiインカム

職員同士の情報共有をリアルタイムで図る。利用者見守りシステムと連携し、利用者が起き上がるなど異常を検知した際は通知が来るため、素早い対応が可能となった。

2. 介護ロボットの導入

① 移乗サポートロボット

ベッドや車いすからの移動を支援してくれる移乗支援ロボットを導入。職員の腰痛予防や身体的負担の軽減に繋がった。

② ミスト浴槽

温浴効果の高いミスト浴槽を導入。職員の入浴介助時間が短縮されただけでなく、皮膚の弱い利用者等にも快適に入浴してもらえるなど、サービス向上にも繋がった。



移乗サポートロボット使用の様子

取組の成果

機器導入から10ヵ月後に実施した職員アンケートにおいて、導入直後と比べて

- ・ **身体的負担がある**と回答した割合 **15.5%減少**(37.5%→22.0%)
- ・ **休憩時間の確保に繋がった**と回答した割合 **7.9%増加**(59.4%→67.3%)
- ・ **時間外労働の削減に繋がった**と回答した割合 **7%増加**(43.8%→50.8%)

職員の身体的負担の軽減・業務効率化に成功し、利用者へのサービスの質の向上にも繋がった。

5. 作業方法などの見直しによる取組

慈光園中央デイサービスセンターでは、高価なICT機器を導入するのではなく、まずは職員一人ひとりが知恵を出し合い、目の前のできることから取組を始めた。具体的には、職員の導線や車両の配置の見直し、記録入力の方法を分散させるなど、日々の業務に潜むムダを徹底的洗い出し、見直しを図った。

取組の内容

(福)長井福祉会では、介護現場の生産性向上に向けた取組について、毎年、法人内で事業場ごとで検討を行い、発表会を開催している。慈光園中央デイサービスセンターでは、今年度、以下の取組を実践した。

1. 職員を集めた部署会議を開催し、現状の業務を全てリストアップ
2. 業務それぞれについて、職員一人ひとりが意見を出し合い、現状の作業方法における課題と改善策を考察
3. 課題と改善策を集約し、実践できそうな内容を検討。具体的な内容は以下のとおり。
 - ・ 入浴後に必要なバスタオルを取りに行く時間を短縮するため、バスタオルの置き場を変更
 - ・ 入浴後の処置のため看護師を呼びに行く時間を短縮するため、ワイヤレスチャイムを導入
 - ・ 利用者の送迎ルートが職員によって異なり、所要時間も異なるため、送迎ルートを共有
 - ・ 利用者が履く靴を用意する時間の短縮のために、靴の整理を実施
 - ・ 倉庫の中のものを探す時間の短縮のために、倉庫を整頓
4. 上記3で検討した改善策を実践することにより、作業時間の短縮を図った。

取組の成果

取組を実践した結果、**1日あたり「50分間」の作業時間の短縮を図ることに成功した。**

新たに生み出された「50分間」については、**利用者への活動時間や利用者のご家族へのより丁寧な情報共有のための時間に充てるなど、サービスの質の向上にも繋がった。**

また、職員一人ひとりが知恵を出し合い、意見を交換することで、**職員間の連帯感や信頼関係の構築にも繋がり、楽しく働きやすい職場を形成**することもできた。

成果が出てからの様子



6. 職員の方との意見交換

(福)長井福社会で働く若手職員の方と職場における取組の状況や介護の仕事などについて、意見交換を実施。

意見交換の様子

【職員の方からのご意見】

(取組後の状況で感じることについて)

・ Wi-Fiインカムの導入により、職員間でスムーズな情報共有ができ、利用者の方へ速やかに対応できるようになった。

・ 利用者見守りシステムの導入により、利用者の方への訪室回数は減り身体的負担は軽減されたが、異常を知らせるアラートの回数が多く、精神的な負担は大きくなった。しかし、いち早く利用者の方の異変に対応できるので、サービスの質の向上には繋がっている。



・ 介護の仕事は大変だが、利用者の方に笑顔を向けられたり、感謝されたり、やりがいがある仕事だと感じている。これからも頑張っていきたいと思っている。

・ 現在、約140人の利用者に対し70～80人の職員で対応している。人手不足を感じることもあるので、もっと職員が増えればいいと思う。

今後の山形労働局の取組について ～意見交換会を終えて～

(福)長井福社会の介護のDX化・ICT化に向けた取組を始め生産性向上に向けた取組は職員の働きやすさ向上や、利用者へのケアの質向上に繋がっているとお話がありました。

職員の働きやすさが介護の質の向上に繋がる、と明確なビジョンを持った(福)長井福社会の取組は、非常に先進的なものだと思います。

介護の仕事は人々の生活に欠かせないエッセンシャルワークであり、そこに携わる方々はかけがえのない存在であると感じています。(福)長井福社会の取組を県内の介護事業者の皆様にも広めることで、県内の介護業界により良い影響をもたらしていきたいと思っています。



山形労働局長 島田 博和